

2001

第11号 (2000, 7, 20発行)

国絵図ニュース

国絵図研究会 〒310 8512 水戸市文京2丁目1番

茨城大学教育学部小野寺淳研究室内

TEL&FAX 029-228-8294 (ダイヤルイン)

第15回例会 岡山大学附属図書館池田文庫の寛永日本図・国絵図熟覧

例年になく猛暑となっておりますが、会員の皆様にはお変わりなくお元気でお過ごしのことと存じます。今回の例会は、倉地克直・青木充子両先生のお世話で岡山大学附属図書館池田家文庫の寛永日本図・国絵図の熟覧と高精度デジタル画像を見せていただくことになりました。また、研究会では寛永日本図について川村博忠先生にご発表を賜ります。またとない機会です。是非ともご参加ください。

同封の葉書で8月10日必着でお申し込み下さい。

また、9月2日の研究会の時に国絵図研究会編の図書刊行について会議を持ちたいと存じます。宜しくお願い申し上げます。

■日程

9月2日(日)

14:30 下記の宿泊所の健康保健保養所つしま苑に直接集合してください。

15:00~17:00 研究会 川村博忠「寛永期の日本図をめぐる」

17:00~17:30 会議 国絵図研究会の図書刊行について

18:30~ 懇親会

宿泊所 健康保健保養所つしま苑

〒700-0083岡山市津島新野1-1-22 ☎086-252-1331

料金 11,000円(学生・院生 9,000円) / 宿泊、懇親会、研究会会場費など一切を含んでいます。一人部屋(別途料金要)などご希望の方は、はがきにご記入下さい。

9月3日(月)

9:00~15:00 岡山大学附属図書館池田家文庫の日本図・国絵図の熟覧(高精度デジタル画像も見学の予定です。)

※熟覧会のみ参加者は直接岡山大学附属図書館において下さい。昼食は、岡山大学の生協でとりたいたと思います。15:00に解散の予定です。

《閲覧予定絵図リスト》

T1-14備前国九郡古図(寛永15~16年)

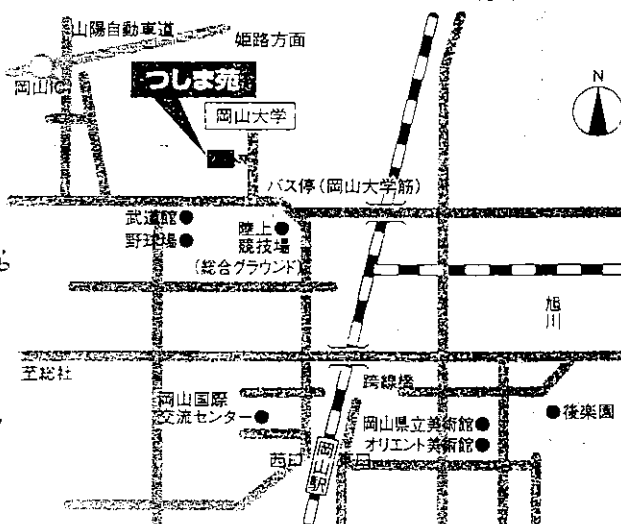
T1-16備前国絵図(寛永15~16写年) 188.8×188.6

T1-31備中国古図(寛永15~16年) (T)-30

T1-61備前国絵図(六拾余州図) 190.0×189.2

T1-86備中国絵図(六拾余州図)

T10-4日本大絵図(寛永16年頃カ)



アクセスガイド

- ◆JR岡山駅西口から車で約7分。
- ◆JR岡山駅東口から市内バス、中鉄バス10分毎に便あり(約12分)、岡山大学筋下車、徒歩にて1分。
- ◆山陽自動車道岡山I.C.から車で約8分。
- ◆岡山空港から車で約25分。

江戸幕府の国家的な行事に国絵図が利用された例の一つとして、日光社参の時の国絵図携行がある。かつて筆者は、佛教大学文学部史学科創設三十周年記念刊行会編『史学論集』（1999）に「紅葉山文庫修蔵『献上国絵図』の管理と利用—八代将軍吉宗の在職期間を中心に—」の小論を記したが、頁数の制約などで史料をできるだけ割愛しなくてはならなかったので十分な実証性を欠いたものとなった。そこで今回は、少々長くなるが幕府官庫である紅葉山文庫の管理を行なった書物奉行の役務日誌である東京大学史料編纂所編『大日本近世史料 幕府書物方日記六』にみられる、享保13（1727）年に将軍吉宗が65年ぶりに行なった日光社参の時にはじめて国絵図携行したことに関する享保12年の記事を抜き出して、解説を加えたいと思う。

- 一、今日四時比 御城江罷出候様二、昨日本多弥八郎より幸太夫江以手紙被申越候付、登城候處、坂原作左衛門對談之御用筋有之候間作左衛門江可談旨、弥八郎被申し候故、作左衛門江遂對話候、先頃佐渡守殿（若年寄大久保佐渡守常春）江松村左兵衛差出候書付、文言等とくと無之候間、相考認直し、様二、佐渡 殿被仰候由二而、右伺書并慶安元年日光江持参候由之御書目録被相返之候二付、請取、猶亦吟味候、
（享保一二年）十月廿二日 浅井半右衛門
下田幸太夫

- 一、御書目録改之、
（享保一二年）十月廿三日

堆橋主計
下田幸太夫

（前略）

- 一、此間佐渡守殿幸太夫（書物奉行下田幸太夫）江被仰渡候、日光江持参之御書物之儀、昨今左兵衛と遂相談認直し、今日兩人登 城、坂原作左衛門江申達候處、於新部屋佐渡守殿御達被成、兩人二而書付差上申候處、何之御不審もなく御受取被成候、此度之伺之御書物ハ長持式棹二而ハ参申可哉と御尋二付、国絵図・城絵図之筈を相止、紙包二仕候ハ、式棹二而持参可罷成候旨、申上候、（中略）

上書二 日光江持参可仕哉之御書物伺

松村左兵衛

日光山御記二冊、日光御参詣記二冊、日光御書物附圖八冊、日光山御書物三冊、玉露叢之内略録一冊、令條記之内同断一冊、日本国之絵図一筈、武蔵国絵図一筈、自是以下国絵図・城絵図ハ、日光山 街道筋向寄 分二而御座候、下総国絵図一筈、上野国絵図一筈、下野国絵図一筈、常陸国絵図一筈、陸奥国之内会津領絵図一筈、岩城・棚倉・相馬領絵図一筈、白川・二本松・三春領絵図一筈、越後国高田・長岡領絵図一筈、武蔵国岩付城絵図一筈、下総国古河城絵図一筈、同関宿城絵図一筈、同佐倉城絵図一筈、上野国高崎城絵図一筈、下野国宇都宮城絵図一筈、同壬生城絵図一袋、同烏山城絵図一袋、常陸国下館城絵図一袋、同土浦城絵図一筈、同笠間城絵図一筈、陸奥国棚倉城絵図一袋、同白川城絵図一筈、同会津城絵図一筈、越後国長岡城絵図一筈、

右之通来年日光江持参仕可然哉、慶安元年日光江持参之御本者、別紙之通書付有之候得共、於 御先さして御用二達可申品とも相見不申候付、此度相考書立奉伺候、慶安元年之外之例ハ、曾而相知不申候、以上、

未十月

松村左兵衛

武蔵国忍城、同川越城、上野国前橋城、同館林城、下野国大田原城
右五ヶ所之城も日光向寄二御座候得共、御文庫二絵図無御座候事、

2

礒永 和貴

て、日光社参の時の国絵図
年記念刊行会編『史学論集』
代将軍吉宗の在職期間を中
け割愛しなくてはならなか
少々長くなるが幕府官庫で
京大学史料編纂所編『大日
に将軍吉宗が65年ぶりに行
保12年の記事を抜き出して、

太夫江以手紙被申越候付、
江可談旨、弥八郎被申し候
(佐渡守常春)江松村左兵衛
、佐渡 及被仰候由二而、
二付、請取、猶亦吟味候、
浅井半右衛門
下田幸太夫

堆橋主計
下田幸太夫

、日光江持参之御書物之儀、
衛門江申達候處、於新部屋
審もなく御受取被成候、此
国絵図・城絵図之筈を相止、
中略)

村左兵衛
越後 八冊、日光山御書物三
日本国絵図一筈、武蔵国
筋向菟 分二而御座候、下
国絵図一筈、陸奥国之内会
本松・三春領絵図一筈、越
総国古河城絵図一筈、同関
筈、下野国宇都宮城絵図一
城絵図一袋、同土浦城絵図
川城絵図一筈、同会津城絵

御本者、別紙之通書付有之
付、此度相考書立奉伺候、

村左兵衛

国大田原城
御座候事、

別紙

上書 慶安元年日光江持参之御本覚

日本紀十九冊、続日本紀、文徳実録廿冊、延喜式四十九
百廿冊、公卿補任五十冊、年代記二冊、律令十九冊、貞
七書七冊、性理大全四十冊、老子翼十冊、莊子翼十冊、
右、慶安元年四月日光江持参之御本之由、書付御座候、
右式通、佐渡守江、御控相添、上之、

書物奉行は、寛永10(1633)年に設置され、通常四名で若年
持で、元禄6(1693)年には書物同心二一名が付された。享保
日記にみるように浅井半右衛門、堆橋主計、下田幸太夫、松村
方奉行は、紅葉山文庫の書物を管理運営することが主な任務で
して日光社参への書物を携えての随行であった。

日光社参とは、将軍が徳川家康の命日である4月にその遺骸
る行事である。将軍は、徳川政権を揺るがすように事件が起き
照大権現への回帰によって幕藩体制の引き締めをおこなった。
成街道は、日本橋から川口、岩槻、幸手か日光街道につらなり
宿城、3泊4日で日光についた。

享保12年10月22日の日記によると、翌年4月に行なわれる日
討が若年寄大久保佐渡守の命によって始められおり、さらに持
言い渡されている。また、慶安元(1648)年の日光に持参する書
が、これは同年に幕府の日光供奉の法令に基づいて制定された

翌23日には、早速目録の再検討が行なわれたようである。23
太夫・松村左兵衛は、若年寄大久保と直接面談し、日光社参に
本国之図はじめ武蔵・下総・上野・下野・常陸・陸奥(会津領
白川・二本松・三春領絵図、越後(高田・長岡領図)の国絵図
古河・宇都宮城絵図をはじめとする15枚を決定している。日本
国絵図は陸奥・越後国の分割様式(両国は大きいので分割図が
図は1枚であったが、元禄期に2枚に分割されたなど)からす
れる。また、城絵図は、正保国絵図の時に合わせて作製されたも
前橋・館林・大田原城絵図が散逸したことも知られる。さらに
参の時に長持2棹で運ぶことを念頭に、国絵図・城絵図を
とも決定したことが記されている。

最後に慶安元年に日光社参に持参する書物をあげているが、
元禄国絵図・正保城絵図は含まれていない。その理由を「御先
も相見不申候付」としている。こうしたことから、日光社参の時
の宿泊する城絵図を持参することに実用的な意義を見いだして
在職29年間に343枚もの国絵図(1カ月にほぼ1枚)を閲覧して
実務的な彼の嗜好を書物奉行が考慮したのであろう。

しかし、強調されるべきは、日光社参に献上された紅葉山文
国絵図ならびに正保城絵図を持参して、享保の改革を断行した
の弛緩した徳川政権の力を再びとりもどすべく行ったすこぶる
憎いほどの演出であろう。日光社参は、将軍の参詣であったこ
より日光迄人馬一続き相成」(「日光御供記」)といわれ、旗
版図の図を家康の御霊屋に持参することは、徳川将軍が日本の
示す絶好の政治的儀礼として位置づけられたものと考えられる
は、国絵図が政治的儀礼の地図であることを端的に示している

本の紹介 荒尾市史編集委員会編『荒尾市史絵図・地図編』

(執筆：猪飼隆明・磯永和貴・山中進・鳴海邦匡など)

荒尾市史編纂委員会では、『荒尾市史絵図・地図編』を発刊します(8月上旬刊行)。

熊本県には、熊本大学附属図書館永青文庫や熊本県立図書館などに、貴重かつ豊富な絵図・地図が現存しています。その中から、特に貴重な絵図・地図を掲載し、加えて広く県外の絵図・地図を収集して高精細の写真図版と翻刻を載せました。荒尾市域の地域研究に役立つだけでなく、手描きの絵図からコンピューターマップまで、絵図・地図の発達の歴史を一目で判るように配列にも工夫いたしました。

本書は、近世の絵図、地租改正総図と村図、炭坑図、近・現代の地図と空中写真から構成されています。

近世の絵図では、肥後藩の絵図作製史を追えるようにしました。肥後藩は、幕府撰国絵図の編纂で肥後藩が絵図の作製技術を習得し、それを藩内統治のために藩領絵図・郡絵図・手永図と形や情報を変えて作製します。また、災害(寛政津波絵図など掲載)の記録や国境争論(肥後・筑後国境の争論絵図掲載)の証拠の絵図が作製されました。さらに近世後期になると伊能忠敬(大・中・小図の全てを掲載)の影響を受け池部長十郎・啓太による測量絵図(加えて測量帳や測量器具も掲載)も登場します。これらの具体的な過程を、絵図や関連する史料も加えて解説を加えました。また、国絵図などを描いた肥後藩御用絵師の矢野派のことにも触れました。

国絵図では、肥後藩に残る慶長国絵図(寛永巡見時の書写図)、正保国絵図(下図・国目付け派遣に伴う献上図の2枚の書写図・元禄国絵図編纂の時の幕府献上図の書写図)、元禄国絵図(熊本城と江戸藩邸の図2枚)、元禄国境縁絵図・海際絵図、内閣文庫の天保国絵図と全ての現存する国絵図などを掲げました。

近代の絵図・地図では、地租改正の時に作製された小字総図と皇国地誌の付図である村図を比較できるようにしました。熊本県では、地租改正図は神風連の乱や西南役で作製されなかったといわれますが、今回始めて公開されるものです。また、炭坑図では、江戸期の肥後藩の炭坑開発の絵図や近代の個人資本の炭坑を描いた絵図、三池炭坑の各種地図(欧米の最新技術)などを掲載しました。さらに、近・現代の地図と空中写真では、各種地形図をはじめ空中写真の数々、戦後すぐからの都市計画図や行政図各種などを豊富です。

国絵図研究会の会員の方には、執筆者(磯永・鳴海)より謹呈したいところですが、高額のためできません。そこで、8月10日までにご購読を申し込みいただきました方には、本体価格7,000円(郵送費650円)を5,000円(郵送費込み)で販売します。ご購読いただきます方は、同封のリーフレットの葉書でお申し込みの上、必ず磯永までご連絡下さい(Tel・Fax 0944-53-3777)。また、興味のある方には是非ともご紹介を賜りたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

本年度の会費を未納の方は、至急お支払い下さい。2000円です。

※振込用紙を必要の方は、下記の磯永までご連絡下さい。

編集後記

♥大牟田は、梅雨に二回の集中豪雨に見舞われ、自宅の横の川が氾濫し床下浸水となりました。皆さんのお宅はいかがでしたか。

♣世は泉総理の旋風が吹き荒れています。田中外相も見応え十分。この人気のように国絵図が、もっと多くの研究者や一般の話題にあがって欲しいものです。そのためにも国絵図研究会編の図書刊行が待たれます。なにとぞご協力のほどを。

《ニュース編集担当：磯永和貴》〒611-0023福岡県大牟田市三池895-1
TEL・FAX 0944-53-3777
